慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	『東京三田育種場種物図解』の復元
Sub Title	The reconstruction of illustrated sheets of gardening plants published by the Mita Ikushujo (a Farming Station) in the middle Meiji Era
Author	磯野, 直秀(Isono, Naohide)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2011
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学 (The Hiyoshi review of the natural science). No.50 (2011. 9) ,p.103- 124
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	50号記念号 資料
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10079809-20110930-0103

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Hiyoshi Review of Natural Science
Keio University No. 50, 103-124（2011）

『東京三田育種場種物図解』の復元

磯　野　直　秀

The Reconstruction of Illustrated Sheets of Gardening Plants Published by the Mita Ikushujô (a Farming Station) in the Middle Meiji Era

Naohide Isono

1　はじめに

研究には，良い材料に出会うこと，発表の場を持つことが大切だが，幸運にも私はこの二つに恵まれていた。

22年前，三田の本塾図書館で何気なく展示ケースに目を向けて『唐蘭船持渡鳥獣之図』と出会った件は前に本誌に記した（注１）が，これは長崎に到来した鳥獣を幕府が必要とするか否か問い合わせるために描いた「御用伺絵」の控図集で，存在すら全く知られていない資料だった。そして，それをきっかけに，私は江戸時代の博物誌に足を踏み入れた。

その後，東京国立博物館では，ある展示を見ようとしてその手前の部屋で『鳥写生図巻』を見つけたのも偶然だった。これは幕府の御用絵師狩野常信のスケッチ集で，そのなかには延宝３年（1675）に幕府が派遣した無人島（現小笠原諸島）探険隊が発見し，連れ帰ったメグロの写生図もあった。メグロは同諸島の特産種で，その図は間違いなく世界最古である。常信の別のスケッチ集『草花魚貝虫類写生図』には，同探険隊の採集したタコノキ（同じく特産種）の実のこれも最古の図があった。

国会図書館では，内容の見当もつかなかった『東莠南畝讖（とうゆうなんぼしん）』を閲覧して江戸時代で最初，かつもっとも正確に描かれたギフチョウ図と対面したし，『しきのくさぐき』と題する資料からは，長いあいだ探し続けていた「枇杷島互市（びわごし）産物考」を見つけ出すことができた。

しかし，いくら素晴らしい資料に出会っても研究成果を投稿できる場が無ければ困る。事実，博物誌研究者の多くが悩んでいるが，私はその点でも恵まれていた。1985年（昭和60年）に

〒 232-0066　横浜市南区六ツ川 3-76-3-D210，慶應義塾大学名誉教授。(76-3-D210, 3-chome, Mutsukawa, Minami-ku,Yokohama 232-0066, Japan; Professor Emeritus, Keio Univ.) [Received Mar. 3, 2011]

『慶應義塾大学日吉紀要・自然科学』（以下，本誌）が創刊されたからである。

もう知る人も少ないだろうが，それ以前にも『慶應義塾大学日吉論文集・自然科学編』が刊行されていた。しかし，A５判の小型誌で，また年１回の発行だったから，物足りなかった。語学など他の分野の状況も大同小異で，日吉にも本格的な紀要をとの声が高まり，1985年に本誌を含めて計７編の紀要が出版されるに至ったのである。

本誌の創刊号が刊行されたのは，その年の秋。B５判と従来より一周り大きく，しかも年に２回刊行。狭隘な自然科学誌ではなく，幅広い内容にするとの趣旨であった。表紙のデザインは今と同じで，緑色は日吉の豊かな自然の象徴だったと記憶する。本誌の創刊は理系の各教室からこぞって歓迎され，私もさっそく筆を取った。

大学紀要というと，発行が遅滞する例が少なくない。幸いに本誌はそのようなことが皆無で今日に至っているが，それだけに編集代表は忙しい。報文の公募数が足りないときは各教室を勧誘に歩きまわり，自身でも報文を書き足す。逆に投稿数が多いと，自身の報文は次号に回したりと気遣う。原稿提出が遅れた方々には，足しげく催促に出かけなければならない。

私も編集代表を６～７年つとめ，その任期中に「投稿規程」「執筆要領」「書式」等々の作成にも苦労したが，私個人が本誌から受けた恩恵にくらべれば，その苦労は万分の一にも及ばない。先にも触れたように，博物誌を調べている人々はみな発表の場が少なくて頭を痛めているが，本誌の登場で私にはそのような制約が無くなり，数々の報文を執筆することが出来た。

1999年（平成11年）に私は本塾を去ったが，本誌は退職者にも門戸を開いている。私は引き続き報文を載せていただいて，現在に及ぶ。しかし，いつまでも恩恵に甘えているわけにもいかない。通算50号となる本号をもってピリオドを打つことにしたい。そして，置き土産として，まだ部分的に紹介しただけだった『東京三田育種場種物図解』（注２）の全図版をカラーで掲載することにした。この『図解』は新発見の美しい色刷資料25枚で，眺めているだけで誰でも楽しめ，記念すべき号にふさわしいのではないかと思ったからである。

（注１）磯野直秀，日本博物学史覚え書14，本誌，44号，2008年。
（注２）磯野直秀・田中 誠，『東京三田育種場種物図解』覚え書，本誌，47号，2010年。

２　三田育種場

本塾三田キャンパスの近くに「三田育種場」という施設があったのを御存知だろうか？　これは農作物・果樹・園芸植物の研究・種苗販売機関で，昔の三田四国町（現芝３丁目）に存在し，明治期に活躍した。表１にその略史をまとめておくが，明治７年（1874）に当時の内務省勧業寮が農作物や果樹などの試験栽培用に旧薩摩藩邸跡地４万坪を買収したことに端を発し，同10年に三田育種場と命名，同20年に民間に売却されたが，事実上は大日本農会が引き継ぎ，その活動は明治末に及んだ。

表１にも記したように，当初は家畜なども扱っていたので，明治12年には競馬場さえ設けられ，同20年まで存続して明治天皇もたびたび臨幸された。この競馬場は日本人が建設した競馬

表１　三田育種場略年表

①『明治前期勧農事跡輯録』，②『東京市史稿』(第60巻)，③『東京市史稿』(第75巻)，④『大日本農会百年史』，⑤『大日本農史』，⑥『農芸書目一覧』：その他，各刊行物の奥付などによる。

明治７年８月	内務省勧業寮，試験栽培地用に，三田四国町の元島津邸跡地（４万坪）を買収。現慶應義塾大学三田キャンパスの東北（現芝３丁目）に位置する。
明治10年６月	同地を三田培養地と命名，ついで三田育種場と改める。
明治10年９月30日	三田育種場開場式，第１回農産会市を開く。同場は，内務省勧農局に直属。
明治11年２月11日	第１回種苗交換会を開く。
明治12年12月20日	育種場内に競馬場を設け，この日，競馬を開催。当初，家畜も扱ったので，馬種改良のためであった。日本人が建設した最初の競馬場で，明治20年まで存続。14年６月26日には明治天皇が臨幸，以後もたびたび訪れられた。⑤ほか
明治14年４月11日	農商務省を設置。育種場はその農務局の傘下に入る。
明治14年11月	『舶来穀菜目録』，農務局編刊。例言，「育種場・曲直瀬 愛」。
明治15年５月	『舶来果樹目録』，農務局編刊。凡例，「育種場・曲直瀬 愛」。
明治16年２月	『[改訂増補] 舶来穀菜目録』，農務局編刊。
明治16年12月	『内国産柿実一覧』，刊：45品の色刷一枚刷。
明治17年４月	三田育種場の業務を大日本農会に委託。①
明治17年８月	『舶来果樹要覧』，竹中卓郎編，三田育種場刊。
明治17年９月	種苗売捌所を三田育種場門外に設ける。④
明治18年２月	『舶来穀菜要覧』，竹中卓郎編，三田育種場刊。
明治18年12月	種苗売捌所支所を四谷塩町３丁目に設ける。④
明治19年５月	『[改訂増補] 舶来穀菜要覧』，竹中卓郎編，三田育種場刊。
明治19年11月	大日本農会，農商務省の通達により，三田育種場を返還。①
明治20年１月	農商務省，三田育種場を民間に売却。実質的には大日本農会が名称・業務を引き継ぎ，種苗の販売も行なう。①
明治21年10月５日	東京府，三田育種場の申請により，事業継続資金1000円を貸与（注１）。
明治22年６月	『百花辨覧 初篇』，竹中卓郎編，三田育種場刊。『東京三田育種場種物図解』もこの頃に作成か。
明治22年６月	『穀菜辨覧 初篇』，竹中卓郎編，三田育種場刊。
明治22年10月	有限会社「東京三田育種場」設立。④／設立願に対する東京府回答：「会社法条例制定マデ人民ノ相対 [直接交渉] ニ任ス」「営業年限ハ明治二十二年ヨリ向十五箇年」。①
明治31年11月	『内外穀菜便覧』，小野寺行三編，三田育種場刊：『穀菜辨覧 初篇』とは，内容がまったく異なる。
明治31年	『内外百花辨覧』，三田育種場刊。⑥
明治37年	『内外百花辨覧』『内外穀菜便覧』，三田育種場刊（再版本）：⑥および杏雨書屋の目録による。

（注１）③の122頁による。その担保のなかに，「写生図，二百五十枚」と「種子袋并ニ各種版木類二百五種面，但，色摺版木付属」がある。「写生図」は「版木」の原図と思われる。

場の第１号という。

育種場は多数の関連書物を刊行したことでも知られ，『舶来穀菜目録』『舶来果樹目録』『舶来果樹要覧』『舶来穀菜要覧』『百花辨覧（べんらん） 初篇』『穀菜辨覧 初篇』などは，とくに歓迎されたようであり，現在も方々の図書館が所蔵している。本稿で取り上げる『東京三田育種場種物図解』も明治20年代初頭に刊行されたと推定している。

3　『東京三田育種場種物図解』

数年前，昆虫学史研究者の田中 誠 氏とともに故長谷川 仁 先生の残された博物誌資料（注１）を調べていた折，色刷の園芸植物図の切抜き片が多数含まれていることに気付いた。その切抜きには「東京三田育種」あるいは「場種物図解」の文字を含むものが多数存在し，また解説の末尾に「東京三田育種場」と記されている。したがって，三田育種場の出版物であり，タイトルは「東京三田育種場種物図解」（以下，「図解」）であることにに間違いない。その切抜きは計100片あった。復元してみると，元は一枚刷で，それぞれ１枚につき４点の園芸植物の図と解説があり，全てで25枚の一枚刷から成ると判明した（注２）。それまで名前も耳にしたことの無い新出資料だった。

現段階ではあくまで推測ではあるが，その100点の図はもともと販売用の種子袋を刷るのに使われたらしい。農作物の種子袋も当時いろいろと刷られていて，そのコレクションも残っているが，「図解」のような一枚刷は農作物では知られていない。

さて，調べを進めるうちに，三田育種場の出版物の一つ，『百花辨覧　初篇』(以下，『百花』)と「図解」が深い関係をもつことが判明した。『百花』は折帖（屏風のような折り畳み式の本）で，１頁に１品の園芸植物の解説付色刷図を貼りつけている。その数は100点，それが「図解」の100図とまったく同一で，同じ版木で刷られていた（注３）。

しかも，「図解」の復元がある程度進んだ段階で，さらに興味深いことがわかった。『百花』は見開きで計２図になるが，その左右の図の組合せが「図解」における左右の組合せとまったく同一なのである。その時点で「図解」の左右関係が判明していた例では，次のようになる。

『東京三田育種場種物図解』			『百花辨覧　初篇』		
所在	左	右	所在	左	右
図版１上段	つるれいし	かきつばた	見開き面33	つるれいし	かきつばた
図版７上段	はなしやうぶ	あやめ	見開き面45	はなしやうぶ	あやめ
図版10上段	アメリカ白鮮	やりけいとう	見開き面16	アメリカ白鮮	やりけいとう

この関係に気付いたとき，これは「図解」の復元に利用できると思った（注４）。

そこで，『東京三田育種場種物図解』の復元を次のように進めた。

①左右の組み合わせ

- タイトルが残り，「種」あるいは「場」の字が切抜き作業で二分されている場合は，その字が復元するような組合せを探す（注５）。
- それ以外の場合は，前述の『百花』の左右関係から，「図解」の左右対を探す。

②上下の組み合わせ：「図解」には所々に小鳥の朱印が捺されている（目的は不明）が，切抜くときに上下が二分される場合がある。その小鳥の姿が復元する２枚を探す（注６）。小鳥印以外に，切断線の形の一致（注７）・汚れ跡の連続（注８）なども利用できる。

こうして，100点の図すべてを復元し，25枚の一枚刷を再構成することが出来た。その復元図すべてを次頁から示すが，この『東京三田育種場種物図解』は育種場の刊行物の広告欄にも登場せず，今まで名さえ知られていない新出資料である。また，本資料以外には一点の存在すら報告されていない。少なくとも現段階においては，まったくの孤本という珍しい資料なのである。

ほかに存在が確認されないのは，発行数が極めて少なかったのか。発行期間が短かったのか。また，この一枚刷はどういう目的で刷られたのか，見当がつかない。種子販売の宣伝ビラか，種子購入者への「おまけ」だろうか。兄弟関係にある『百花辨覧　初篇』とどちらが先の刊行なのか‥‥。ともかく，謎だらけの資料なので，今後も調査・探索を続けたい。

（注１）長谷川 仁 先生は昆虫学者・昆虫学史研究家で，多大の博物誌資料を所蔵され，江戸時代の博物誌にも詳しかったが，2006年に逝去された。御遺族はその資料を国会図書館に寄贈されると決められ，寄贈に先立って田中 誠 氏と私が個々の資料を調べていたのである。➡磯野直秀・田中 誠，尾張の嘗百社とその周辺，本誌，47号，2010年。

（注２）磯野直秀・田中 誠，『東京三田育種場種物図解』覚え書，本誌，47号，2010年。

（注３）『百花辨覧　初篇』は，東京大学総合図書館本と国会図書館本を調べた。

（注４）最終的には，100品全部にこの関係が成立するとわかった。特定の左右組合せがいつも現われるというのは，２品の版木が連続している，つまり横長に続けて彫られていることを示唆する。

（注５）例，図版１，２，３，７，10，14，15，21，25

（注６）例，図版１左，３，４，６左，７左，９

（注７）例，図版１左，２左

（注８）例，図版10，15右，20右，24左

4　『東京三田育種場種物図解』の復元図

凡例

1　以下の図版は，三田育種場刊行の一枚刷『東京三田育種場種物図解』25点の復元図を50%縮小したもので，各一枚刷は４品の園芸植物の色刷図と解説から成る。

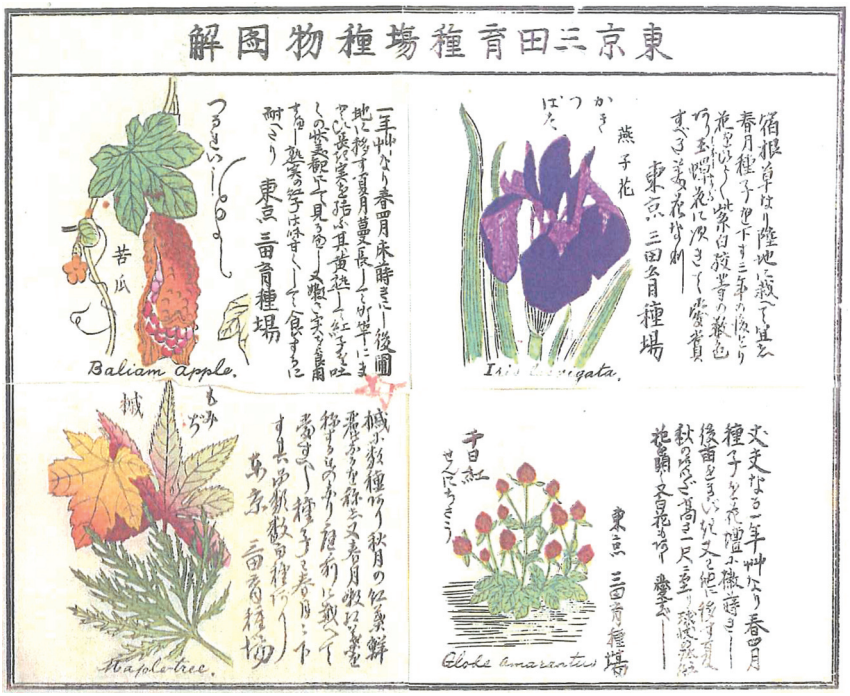
2　原本は長谷川 仁 氏旧蔵（現在は国会図書館蔵）で，種類別に切り抜かれて，計100枚の断片として保存されていた。その切抜き片を全て原寸でコピーし，前節に記した手法で４枚ずつを組合せて元の一枚刷と考えられる25枚を復元した。ただし，上方の「東京三田育種場種物図解」の題名が失われている場合が数点あり，他の復元図のコピーで補った。

3　各一枚刷には番号も，発行年月も記されていないし，４品の植物の並べ方にも特定の規則は認められないので，復元が完成した順に配列して図版番号を付した。

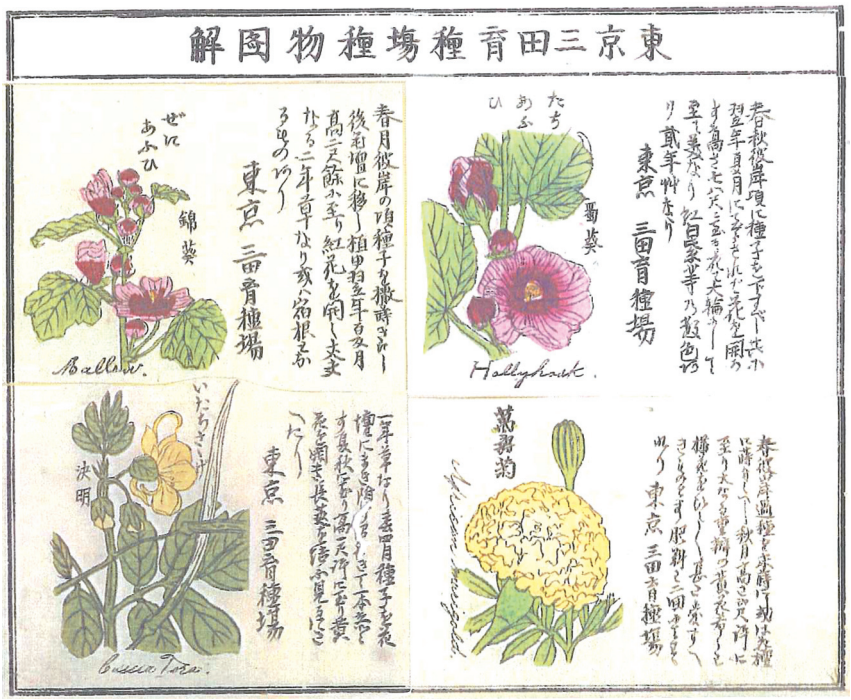
4　各図版には，図版番号の後に「左上・右上・左下・右下」の順で品名を挙げた。品名は記載された平仮名あるいは漢字名を記したが，字体は現行のものに統一した。また，品名をわかりやすくするために，平仮名を漢字に変えたり，濁点を加えた場合もある。

5　「あさがほ」は３点所収されているので，①②③を付して区別した。

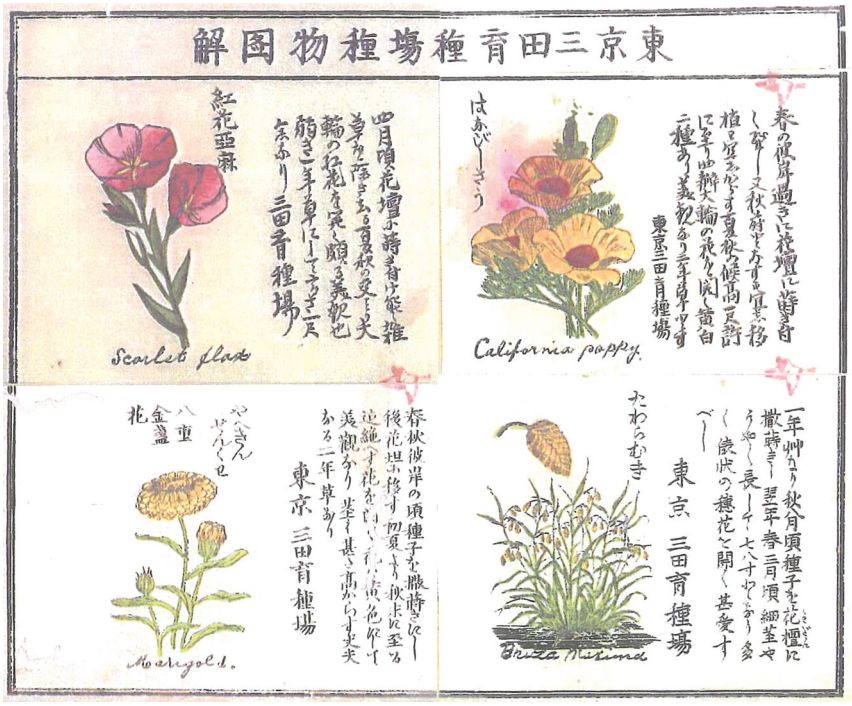
6　各品の現和名は，この図版の後に置いた表２に記してある。



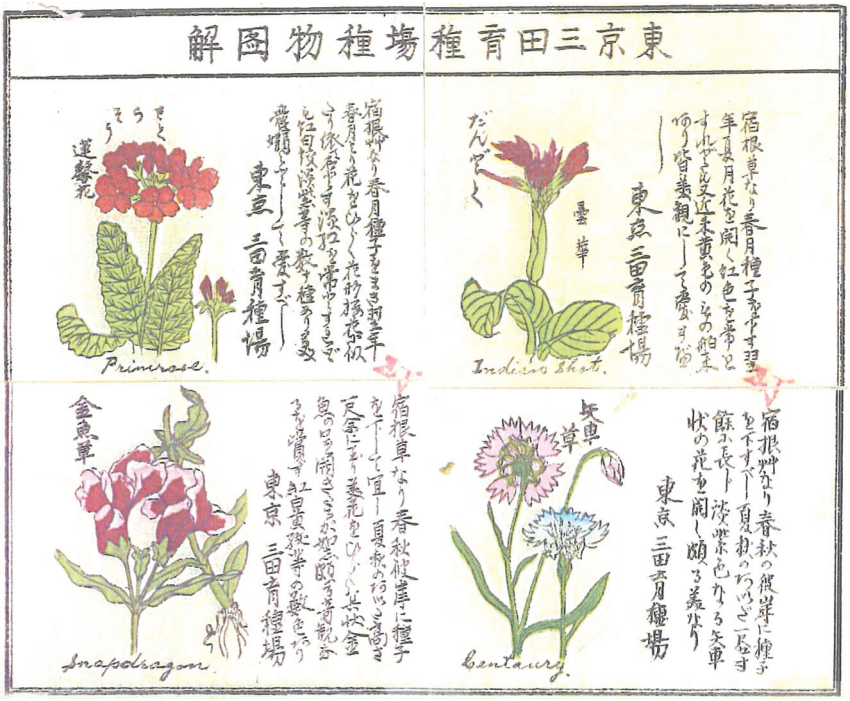
図版１　つるれいし，かきつばた，もみぢ，千日紅



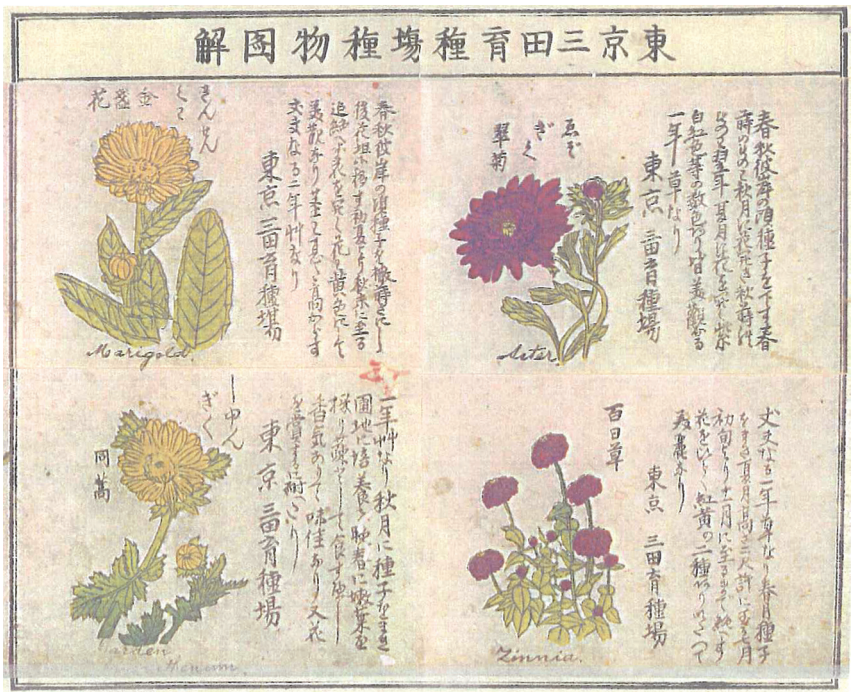
図版２　ぜにあふひ，たちあふひ，いたちささげ，万寿菊



図版３　紅花亜麻，はなびしさう，八重きんせんくわ，たわらむぎ

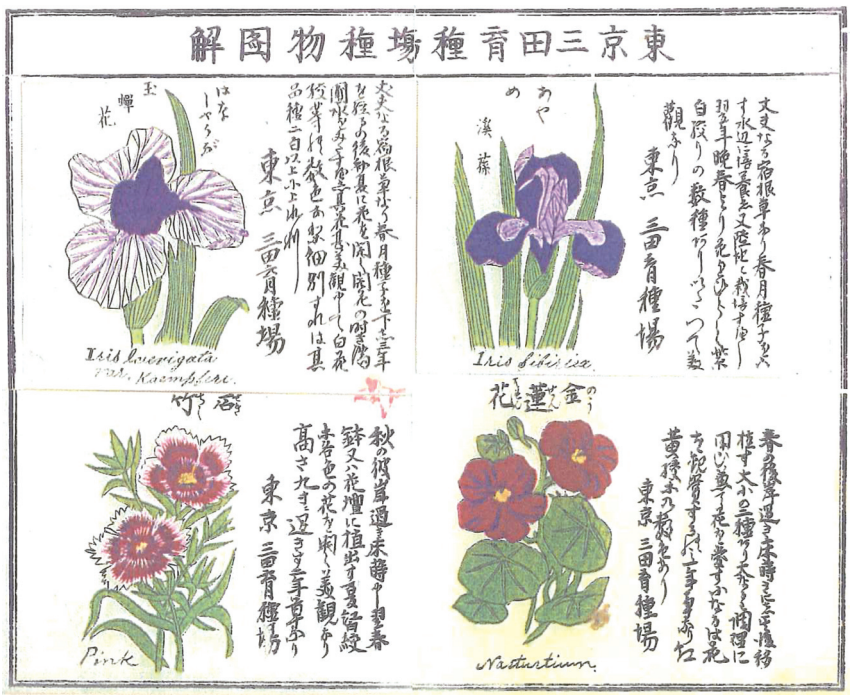


図版４　さくらさう，だんどく，金魚草，矢車草

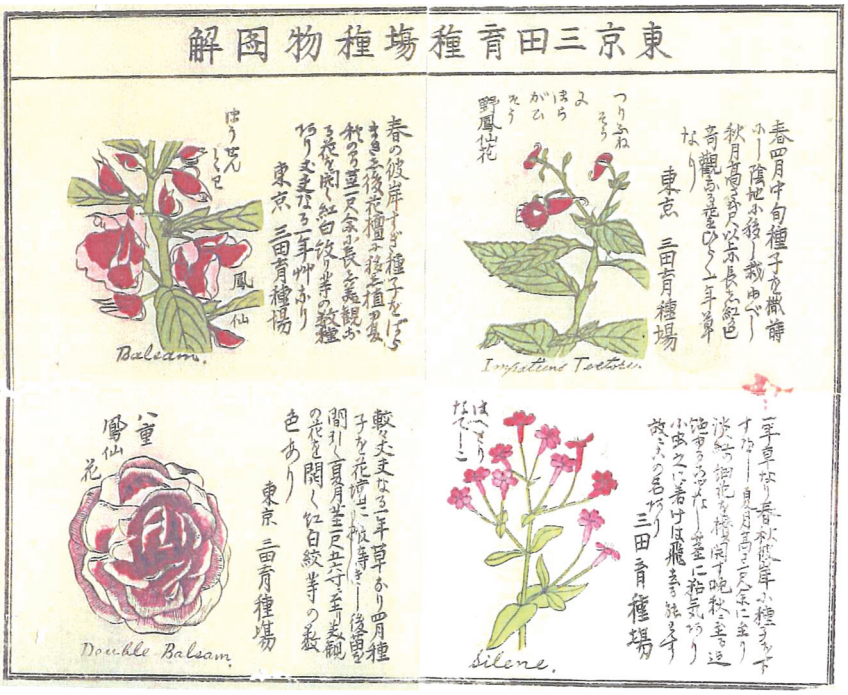


図版５　きんせんくわ，ゑぞぎく，しゆんぎく，百日草

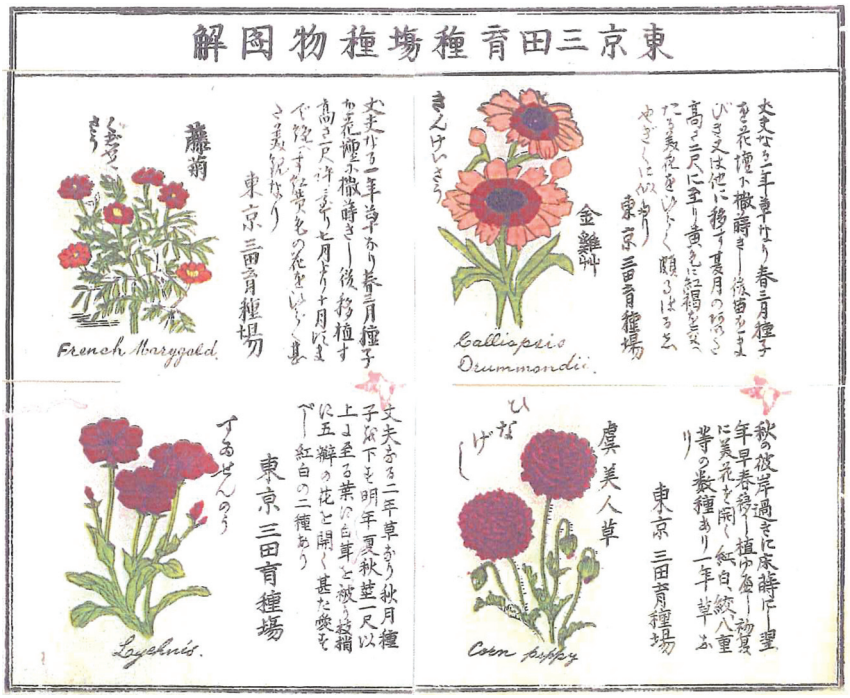
図版６　ひゑんさう（飛燕草），まつかぜさう，ひなぎく，にわせきしやう



図版７　はなしやうぶ，あやめ，せきちく（石竹），のうせんはれん



図版８　鳳仙花，つりふねさう，八重鳳仙花，はへとりなでしこ

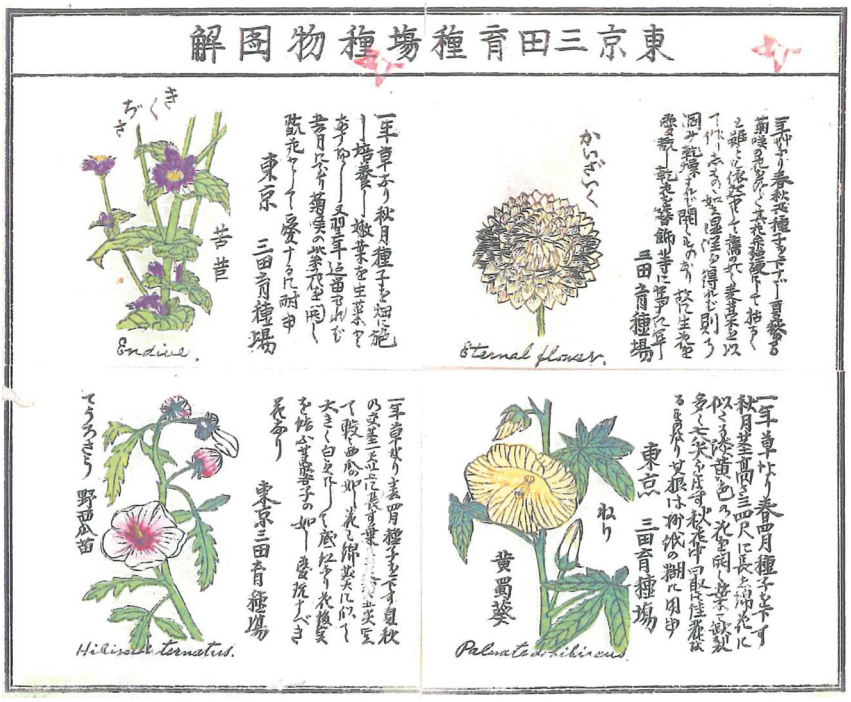


図版９　くじやくさう，きんけいさう，すゐせんのう，ひなげし

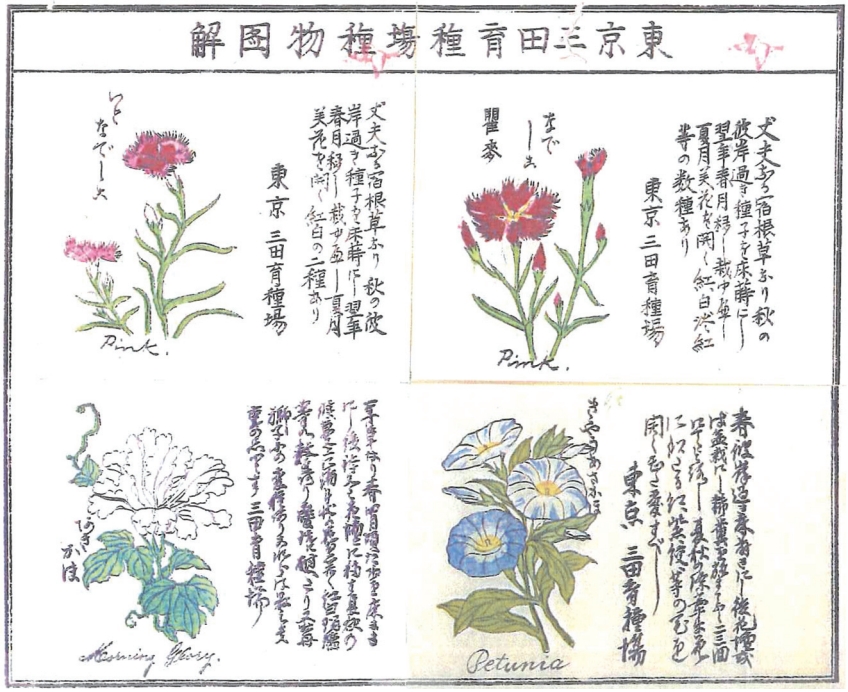
図版10　アメリカ白鮮，やりけいとう，美女桜，天人菊

図版11　もみぢあふひ，あめりか釣鐘草，松葉牡丹，ちやぼげいとう

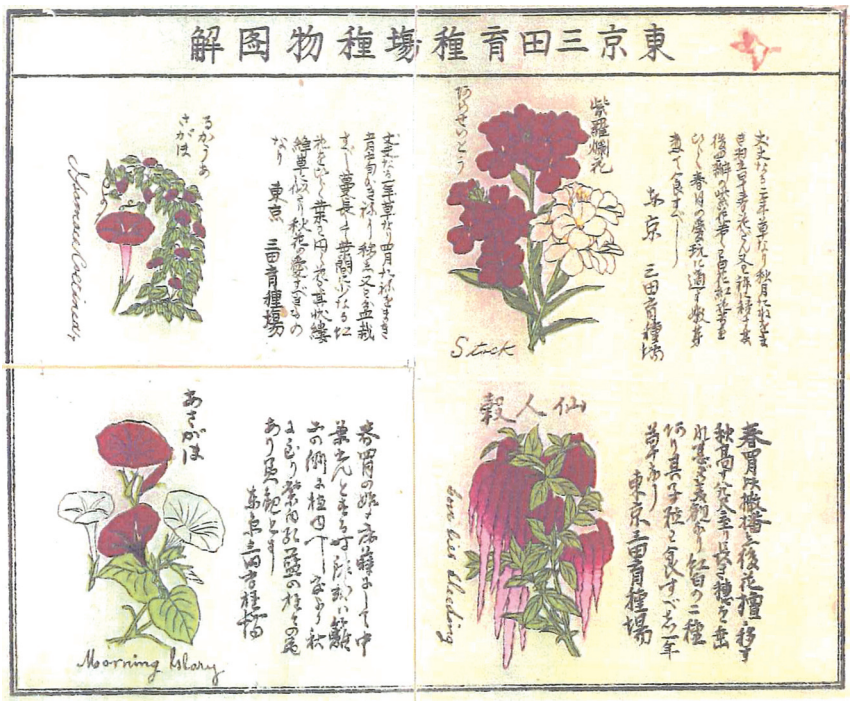
図版12　だんぎく，むぎはらばな，まつむしさう，美女なでしこ



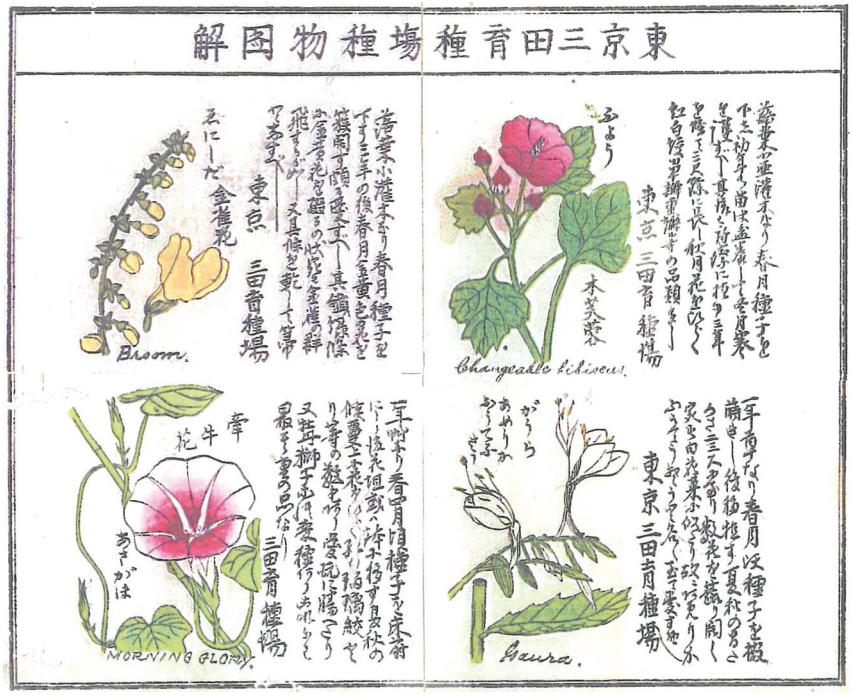
図版13　きくぢさ，かいざいく，てうろさう，ねり



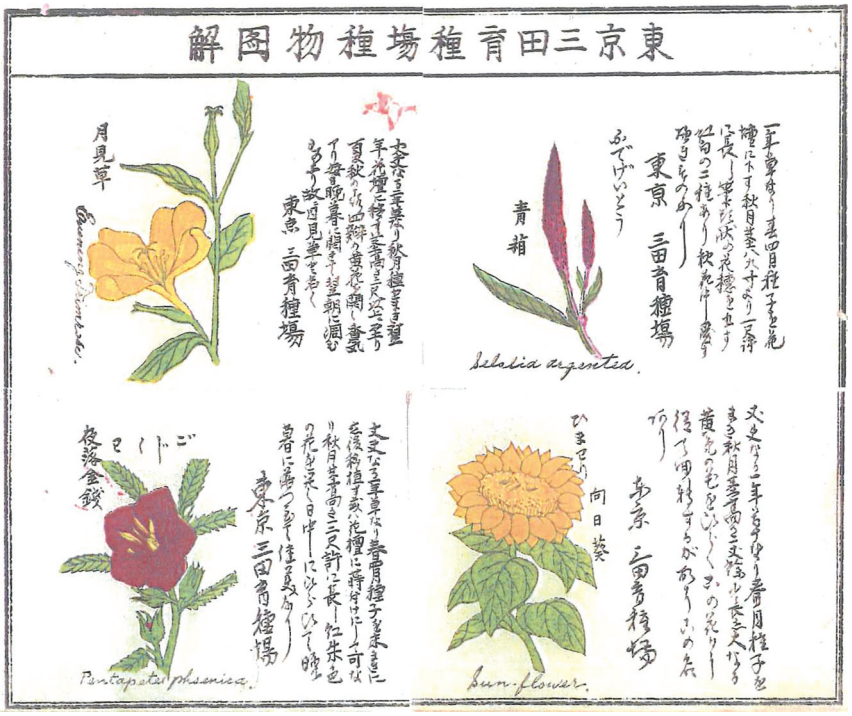
図版14　いとなでしこ，なでしこ，あさがほ①，ききやうあさがほ



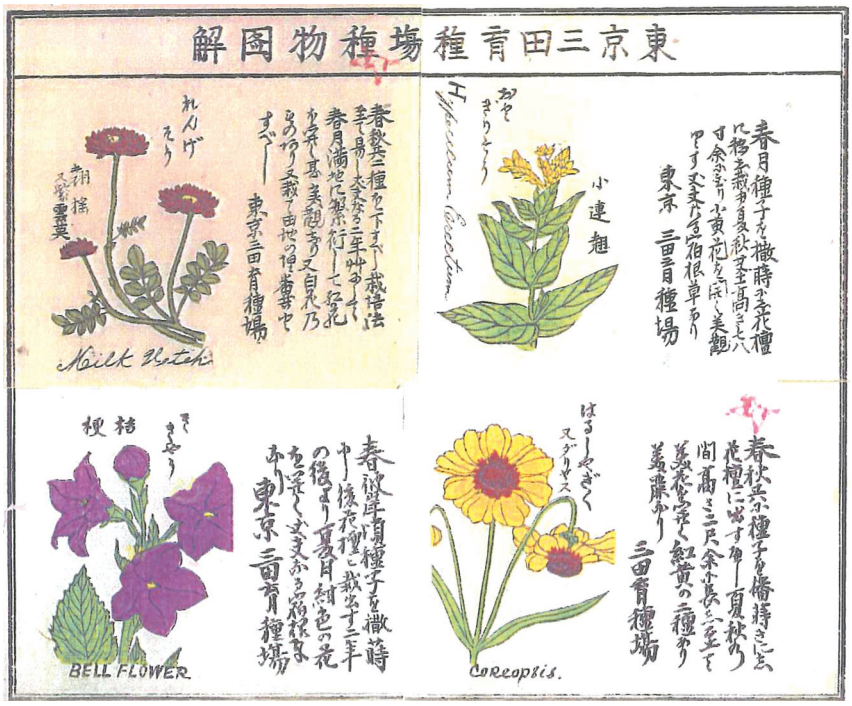
図版15　るかうあさがほ，あらせいとう，あさがほ②，仙人穀



図版16　ゑにしだ，木芙蓉，あさがほ③，あめりかふうてふさう



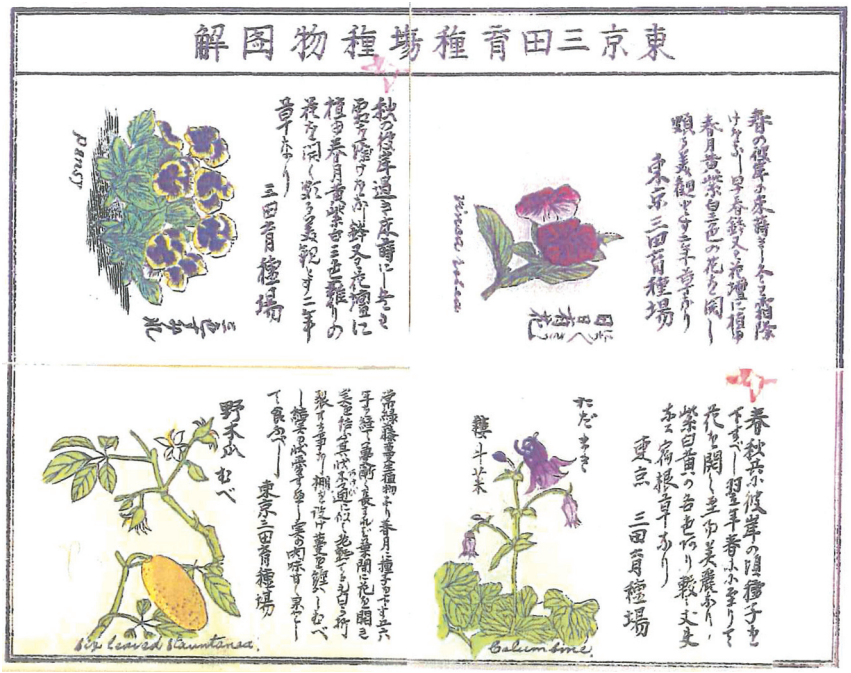
図版17　月見草，ふでげいとう，ごじくわ，ひまわり



図版18　れんげさう，おとぎりさう，ききやう，はるしやぎく

図版19　にしきはげいたう，けいたう，バルトニヤ，もくせいさう

図版20　しろなす，にはふぢ，やまあざみ，ニホヒレンリ

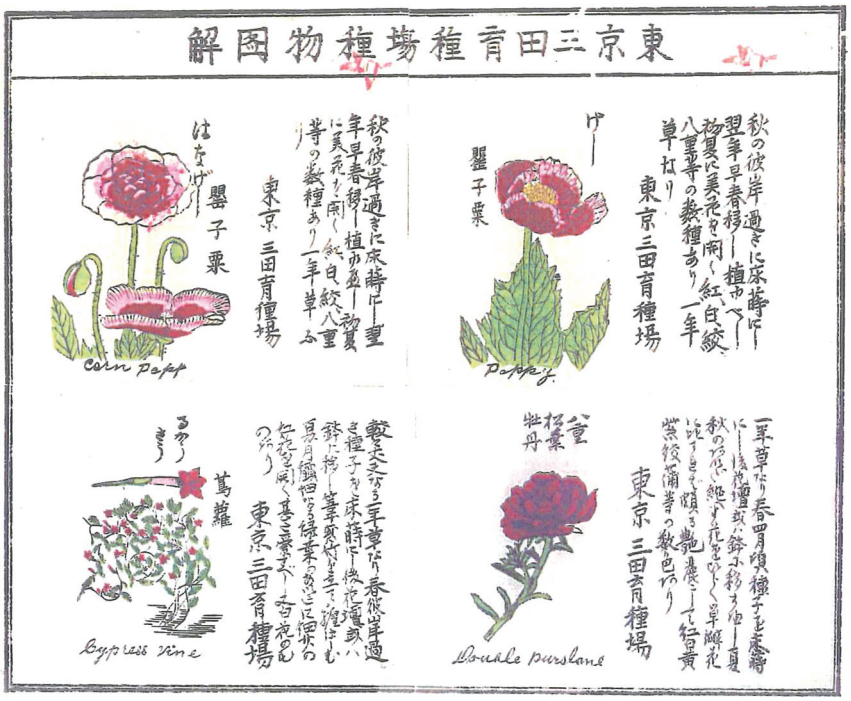


図版21　三色すみれ，にちにちさう，むべ，おだまき

図版22　ながはなたばこ，べに，のこぎりそう，みづひき

図版23　ひあふぎ，おしろいばな，べににがな，ふうせんかつら

図版24　ヂギタリス，ききやうなでしこ，亜麻，うつぼそう（夏枯草）



図版25　はなげし，けし，るかうさう，八重松葉牡丹

表 2　『東京三田育種場種物図解』所収品一覧

- 「原記載名」欄には図版 1 ～25のタイトルに記した和名を挙げ，現代の発音に基く五十音順に配列した。ただし，わかりやすいように平仮名を漢字化した場合や，濁点を加えた場合もある。
- 見出しの和名に続いて，「／」の後に，タイトルに含めなかった原記載の別名（一部のみ）や，原記載の英名・学名を示した。英名・学名の誤りは訂正した。
- 「あさがほ」は 3 カ所に出るので，①②③で区別している。
- （　）は，漢字名や読みなど，【　】は注記の記号で，注記は本表末尾に置いた。
- *は外来植物を，➡は参照事項を示す。

原記載名（和名・英名・学名）	現和名（*は外来植物）	図版番号
あさがほ①／ Morning glory	アサガオ*（変化朝顔【A】）	14
あさがほ②／ Morning glory	アサガオ*	15
あさがほ③／ Morning glory	アサガオ*	16
亜麻（あま）／ Flax	アマ*　➡紅花亜麻	24
あめりか釣鐘草／ Bell flower	フウリンソウ（風鈴草）*	11
アメリカ白鮮／ Fraxinella（属名）【B】	ヨウシュハクセン*	10
あめりかふうてふさう（風蝶草）／ Gaura	セイヨウフウチョウソウ*	16
あやめ／ Iris sibirica	アヤメ	7
あらせいとう／ Stock	アラセイトウ*	15
いたちささげ／決明，Cassia tora	エビスグサ*	2
いとなでしこ／ Pink	ナデシコ属の一種*	14
うつぼそう／夏枯草，学名・英名ナシ	ウツボグサ	24
ゑぞぎく／ Aster	エゾギク*	5
ゑにしだ／ Broom	エニシダ*	16
おしろいばな／紫茉莉，Four-o'clock	オシロイバナ*	23
おだまき／ Columbine	オダマキ	21
おとぎりさう／ Hypericum erectum	オトギリソウ	18
かいざいく（貝細工）／ Eternal flower	カイザイク*【C】	13
かきつばた／ Iris laevigata	カキツバタ	1
ききやう／ Bell flower	キキョウ	18
ききやうあさがお／ Petunia（属名）	ペチュニア*	14
ききやうなでしこ／ Phlox drummondii	キキョウナデシコ（フロックス）*	24
きくぢさ／ Endive	キクヂシャ*	13
金魚草／ Snapdragon	キンギョソウ*	4

きんけいさう／Calliopsis drummondii	キンケイギク*	9
きんせんくわ／金盞花，Marigold	キンセンカ*➡八重きんせんくわ	5
くじやくさう／French marigold	クジャクソウ*	9
けいたう／Cockscomb	ケイトウ*	19
けし／罌子粟　Poppy	ケシ*	25
ごじくわ（午時花）／Pentapetes phoenicea	ゴジカ*	17
さくらさう／Primrose	サクラソウ	4
三色すみれ／Pansy	パンジー*	21
ヂギタリス／Digitalis	ジギタリス*	24
しゆんぎく／Garden chrysanthemum	シュンギク*	5
しろなす／White egg plant	ナスの園芸品種*	20
すゐせんのう／Lychnis（属名）	スイセンノウ（酔仙翁）*	9
せきちく（石竹）／Pink	セキチク*	7
ぜにあふひ／錦葵，Mallow	ゼニアオイ*	2
千日紅／Globe amaranth	センニチコウ*	1
仙人穀／Love lies bleeding	ヒモゲイトウ*	15
たちあふひ／蜀葵，Hollyhock	タチアオイ*	2
たわらむぎ／Briza maxima	コバンソウ*	3
だんぎく／Caryopteris mastacanthus	ダンギク	12
だんどく／Indians shot	ダンドク*	4
ちやぼげいとう／Dwarf cockscomb	ケイトウの一品種*	11
てうろさう（朝露草）／Hibiscus ternatus	ギンセンカ*	13
月見草／Evening primrose	マツヨイグサ*【D】	17
つりふねさう／Impatiens textori	ツリフネソウ	8
つるれいし／Baliam apple	ツルレイシ（ニガウリ）*	1
天人菊／African marigold	テンニンギク*	10
ながはなたばこ／Nicotiana longiflora	タバコの一品種*	22
なでしこ／Pink	ナデシコ	14
ニホヒレンリ／Sweet pea	スイートピー*	20
にしきはげいたう／Joseph's coat	ハゲイトウの一品種*	19
にちにちさう／Vinca rosea	ニチニチソウ*	21
にわせきしやう／英名・学名ナシ	ニワゼキショウ*	6
にはふぢ／いわふぢ，Indigofera decora	ニワフジ	20
ねり／Palmated hibiscus	トロロアオイ*【E】	13
のうせんはれん／Nasturtium	ノウゼンハレン*【F】	7
のこぎりそう／はごろもそう，Siberian milfoil	セイヨウノコギリソウ*	22

はへとりなでしこ／Silene（属名）	ムシトリナデシコ*【G】	8
はなげし／Corn poppy	ヒナゲシの近縁種*？【H】	25
はなしやうぶ／Iris laevigata kaempferi	ハナショウブ	7
はなびしさう／California poppy	ハナビシソウ*	3
はるしやぎく／Coreopsis（属名）	ハルシャギク*	18
バルトニヤ／Bartonia aurea	バルトニア*【J】	19
ひゑんさう（飛燕草）／Larkspur	ヒエンソウ*	6
ひあふぎ／射干，Paradanthus（属名）	ヒオウギ	23
美女桜／Verbena（属名）	バーベナ*	10
美女なでしこ／Sweet william	アメリカナデシコ*	12
ひなぎく／Double daisy	ヒナギク*	6
ひなげし／虞美人草，Corn poppy	ヒナゲシ*　➡はなげし	9
ひまわり／Sunflower	ヒマワリ*	17
百日草／Zinnia（属名）	ヒャクニチソウ*	5
ふうせんかつら／Balloon vine	フウセンカズラ*	23
ふでげいとう／Celosia argentea	ノゲイトウ*	17
ふよう／木芙蓉，Changeable hibiscus	フヨウ*	16
べに／Safflower	ベニバナ*	22
べにニがな／Senecio（旧属名）	ベニニガナ*	23
紅花亜麻／Scarlet flax	ベニバナアマ*【K】	3
鳳仙花／Balsam	ホウセンカ*　➡八重鳳仙花	8
まつかぜさう／Boenninghausenia（属名）	マツカゼソウ	6
松葉牡丹／Portulaca（属名）	マツバボタン*　➡八重松葉牡丹	11
まつむしさう／Morning bride	セイヨウマツムシソウ*？	12
万寿菊／Aflican marigold	アフリカン・マリゴールド*	2
みづひき／Polygonum filiforme	ミズヒキ	22
むぎはらばな／貝細工，Everlasting flower	ムギワラギク*【L】	12
むべ／野木瓜，Six-leaved stauntonia【M】	ムベ	21
もくせいさう／木犀草，Mignonette	モクセイソウ*	19
もみぢ／Mapletree	カエデ類	1
もみぢあふひ／Hibiscus coccineus	モミジアオイ*	11
八重きんせんくわ／Marigold	キンセンカ*　➡きんせんくわ	3
八重鳳仙花／Double balsam	ホウセンカ*　➡鳳仙花	8
八重松葉牡丹／Double purslane【N】	マツバボタン*　➡松葉牡丹	25
矢車草／Centaury	ヤグルマソウ*	4
やまあざみ／飛廉，英名・学名ナシ	アザミ類の一種	20

やりけいとう／A kind of Cockscomb	ケイトウの一品種*	10
るかうあさがほ／Ipomoea coccinea	マルバルコウ*【P】	15
るかうさう／Cypress vine	ルコウソウ*	25
れんげさう／Milk vetch	ゲンゲ*	18

【A】 変化朝顔は，真黄色の花や，花がナデシコ型・キキョウ型になる，また八重咲きや二段重ねになる，葉が八手状・柳葉状・糸状になる‥‥など，およそ朝顔とは思えない姿になる朝顔で，特殊な交配で作出する。江戸時代後半，とくに幕末に流行した。図版14の朝顔では花びらに多数の切れ込みがあるのがわかる。

【B】 Fraxinella はヨウシュハクセンの旧属名。

【C】 ドライフラワーにするので，Eternal flower の名がある。➡むぎはらばな

【D】 幕末期に導入された「月見草」は黄色い花で，現ツキミソウではなく，現マツヨイグサ。なお，当時，すでに「待宵草」「宵待草」の名も存在した。

【E】 和名「ねり」は根に粘液を含むことに由来し，英名は葉が palmated「掌状」だから。

【F】 ノウゼンハレンは外国語めくが，花が「ノウゼンカズラ」に，「葉」が「蓮（ハス）」（レン）に似ているとして，植木屋が「ノウゼン・ハ・レン」と命名したのだという。

【G】 茎から粘液が出るのを虫を捕るためと誤認して，ハエトリナデシコ・ムシトリナデシコと名付けられたが，食虫植物ではない。

【H】 別項に「ひなげし」があり，ヒナゲシが重複する。図版 9 のヒナゲシは八重，図版25のヒナゲシは一重に見える。あるいは，「はなげし」はヒナゲシの近縁種かもしれない。

【J】 Bartonia aurea は旧学名で，現在は Mentzelia lindleyi。だが，欧米諸国でも通称には Bartonia 系の名を用いている。

【K】 ベニバナアマは北アフリカ産，アマ属の一種。

【L】 ドライフラワーにするので，Everlasting flower の名がある。➡かいざいく

【M】 英名 Stauntonia はムベの属名に由来する。

【N】 double は八重の花を指し，purslane はスベリヒユの英名（マツバボタンはスベリヒユ属）。

【P】 マルバルコウの学名は Quamoclit coccinea。

謝辞　田中 誠 氏は，長谷川先生旧蔵の多数の資料袋から，『東京三田育種場種物図解』の切抜き片と思われる図を根気よく探して下さった。そのお力添えが無ければ，この復元はあり得なかった。また，長い年月にわたり，本誌に投稿した私の報文草稿に目を通していただき，数々の有益なコメントを頂戴した。末筆ではあるが，心から御礼を申しあげたい。